

トランペットの歴史から見る西洋音楽文化



吹奏楽やオーケストラに含まれる楽器としてトランペットは現代の日本においてとても身近な存在です。しかし、この楽器の音色に日本人はどのような意味を見いだしているのでしょうか。トランペットは紀元前に遡る歴史がありますので、ヨーロッパ人には独特な象徴的響きを伴って聴こえているはずなのです。この点の理解を深めれば、クラシック音楽を聴くときに新たな聴き方ができるようになるかもしれません。トランペットの話をきっかけに音楽への探究の扉が開かれます。

第1回 7月16日 (土)

音楽史からの問題提起

～なぜモーツァルトやベートーヴェンの
楽譜にはトランペットの高い音がないのか～

第2回 7月23日 (土)

トランペットは衰退 or 発展？

～現代につながるラッパの響き～



講 師：秋田大学教育文化学部教育実践講座
石原 慎司 講師

会 場：秋田大学教育文化学部2号館1階演奏室

日 時：平成28年7月16日 (土) 14:00～15:30
7月23日 (土) 14:00～15:40

対 象：どなたでも

受講料：1,000円 (全2回参加)

定 員：30名 (要申込)

※定員に達し次第締め切りといたします。

申込締切：7月14日 (木)

平成28年度秋田大学公開講座

トランペットの歴史から見る西洋音楽文化

〔講座日程〕

	日 時	講義題	講義概要
第1回	7月16日(土) 14:00～15:30	音楽史からの問題提起 ～なぜモーツァルトやベートーヴェンの楽譜にはトランペットの 高い音がないのか～	講義題にある疑問点を参加者と共有したのち、この点を解明していくための基礎的情報を学びます。トランペットの歴史や楽器の仕組みの理解を深めつつ、この回では特にバロック音楽からトランペットの特徴を観察したいと思います。
第2回	7月23日(土) 14:00～15:40 (15:30～15:40 閉講式)	トランペットは衰退or発展？ ～現代につながるラッパの響き～	トランペットを伴う音楽が、18世紀以降どのように変化していったのか、そして、その理由は何だったのかについて、音楽面以外にも、西洋史（政治・経済・文化）からその理由を総合的に探究します。また、この楽器の意味合いが歴史的にどのように保持されているのかについて、ロマン派以降のいくつかの曲を通して観察する予定です。

〔会場案内図〕



- 自家用車でお越しの方
手形キャンパス構内駐車場をご利用ください。路上駐車はしないようお願いいたします。正門から入って右手の総合案内所で、空いている駐車場をご確認願います。
- バスでお越しの方
秋田駅西口から手形キャンパスまで所要時間約10分(運賃190円)です。
▽路線：手形山経由大学病院線
▽乗場：秋田駅西口12番線
▽下車：秋田大学前
- 徒歩でお越しの方
秋田駅東口から手形キャンパスまで所要時間約15分(約1.3km)です。